

ブラウザーの(←)で戻って下さい



恵比須神社、高架道路手前の二ヶ所では道をご選択下さい。

作成見本

- 05 石標
- 06 石標
- 07 門
- 08 石標
- 09 堂
- 10 石標
- 11 石碑
- 12 石標
- 13 碑
- 14 石碑



大和川の堤に建つ「佛教傳來之地」碑 [10]。

海柘榴市案内板 [08] から小さな道標 [09] を経て川の堤へ出た所。

(7-L)

(7-R)

■大神神社 [07]…わが国最古の神社とされ、本殿がなく、背後にひかえる三輪山を御神体として拝殿から拝む形式をとっている古式の神社として有名。山陰、出雲の神「大物主神」がこの地に住まれたことが始まりと伝えられる。ヤマト建国以前の話として伝わっており、出雲の「国譲り神話」と共にヤマトと出雲の関係は深そう。

■海柘榴市…大神神社から南の平等寺を経て、山の辺の道は大和川へ向う。
 「金屋の石仏」[09]の前を通り、古い町筋に出てから左に曲がって進むと「海柘榴市」の案内板 [11] が目に入る。このあたりは、ここまで歩いた「山の辺の道」「上ツ道」これから進む「ハセ道」、南の飛鳥と結ぶ「磐余(イワ)の道」、西へ向けて大阪南部と結ぶ「竹之内街道」が集まり、大阪湾から海外の使節も遡行した大和川との合流点。日本書紀によると隋からの使者達を75匹の飾り馬で迎えたのもこのあたり。陸路、水路の交通の要衝として、日本最古の市が開かれた華やかな場所であった。今なら、国内外の物産や文化が集まる国際貿易港であり、ハイウェイのインターか。往時の川幅は広がったようだが、今のこのあたりの平凡な盆地の風景からは、想像もできない。卑弥呼の屋敷跡が巻向だとすれば、内外の交通の要衝近くに位置していたことになる。仏教もこの地に伝来したことが碑に残されている。この海柘榴市と、巻向、桜井市には多くの天皇の宮が置かれた場所でもあり前方後円形の御陵が残る。

高架道路の手前で左右の道を選択する。右の旧道へ入ると、山陰の出雲と本家を競う「出雲」地区がこのあたりにあってビックリ。出雲にある相撲神社が、このヤマトにもある。相撲発祥はヤマトか山陰か！三輪の大神神社の祭神が出雲の神であったことと重ねると、当時、出雲で鉄器文化を持つ強力な地域集団の一部が紛争などでこのヤマトに流れてヤマト民族と交わりながらヤマト政権を作り上げ、やがて本家出雲を討った。歴史書では「国譲り」としたが、倒した本家の怨念を鎮めるために大神神社に霊を祀り、出雲の地名をこのあたりに用いた…(これは私見ですが、後の天満宮を含め、たたりほど恐ろしいものはなかった時代の話です。)
 「出雲の国譲り神話」のウラを想像してみると、街道の旅に味が出る。

【概略年表】

神話	歴史
国生み神話 (淡路島などが生まれる)	1世紀 後漢光武帝が金印授与 (弥生時代)
出雲神話 (天照大神の弟 杵尊が出雲に下る)	2~3世紀 邪馬台国、卑弥呼の時代 (")
出雲国譲り神話 (子孫村々乎命が出雲を譲る)	3世紀半ば 箸墓古墳築造 (弥生から古墳時代へ)
天孫降臨神話 (天照大神の孫ニギ日向へ降りる)	4世紀 ヤマト政権の成立 (古墳時代)
B0660 東征神話 (神武天皇、ヤマトへ入り神武天皇に)	5世紀 垂仁天皇陵築造 (")
B04 垂仁天皇の命で天照大神を伊勢へ移す	6世紀 仏教伝来 (538/552年説) (")
↑ 神が日向からヤマト・橿原に入り都を設け、初代天皇となる東征神話はヤマト政権の成立を暗示する。神話は日本人の心のルーツだが、垂仁天皇が伊勢神宮に天照大神を祀った時期も政権成立以前の「紀元前」とされ年代は史実に合わない。年表をこのようにズラすと何が何が見えてきそう。	7世紀 推古天皇 (592年)、飛鳥に宮 (飛鳥時代) 蘇我入鹿殺害 (645年)、大化の改新へ
	8世紀 平城京に都を移す (710年 奈良時代) 古事記編纂 (712年) 日本書紀編纂 (720年)